

# 環境白書の発刊にあたって



近年、毎年のように多くの自然災害が起きるようになっており、昨年は、東日本を中心に台風第15号・第19号により大規模かつ広範な水害で、多くの人命や家屋等が失われるなど、人々の生活に甚大な被害をもたらしました。同時に災害時におけるエネルギー確保のあり方や災害によって発生した廃棄物の処理への対応など大変難しい課題にも直面することとなりました。

自然災害は、日本のみならず世界の各地においても頻発しており、気候変動との関連も指摘されているところであります。

本年は、温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組であるパリ協定が本格的に運用される最初の年にあたり、全世界をあげて地球温暖化防止への取組を本格化させていくこととなります。

また、昨年6月に開催されたG20大阪サミットにおいては、気候変動やエネルギー、さらにプラスチックごみによる海洋汚染などの問題がその主要なテーマとして取り上げられ、温暖化のみならず様々な環境問題が世界的に考えていかなければならない大きな課題であることが示されたところです。

京都議定書誕生の地である京都府において、私たちはこうした環境をめぐる世界的な動向に目を向けつつ、府民の皆さんとともに環境に対する意識を高めていく必要がありますし、歴史と文化に育まれ暮らしの中に根付いた環境にやさしい生活習慣、行動を続けていかなければなりません。

昨年10月に策定しました「京都府総合計画（京都夢実現プラン）」においては、環境にやさしく安心・安全な京都府を目指して脱炭素社会へのチャレンジを掲げ、温室効果ガス排出実質ゼロへの挑戦や、再生可能エネルギーを最大限導入するなど自立分散型のスマートな社会の形成、プラスチックをはじめとした廃棄物が限りなく削減されたゼロエミッション社会の実現、自然と共生する地域社会の実現などを環境分野における20年後に実現したい姿としてお示ししたところです。現在、京都府における環境行政推進の基本となる京都府環境基本計画や京都府地球温暖化対策条例等の改定作業を進めておりますが、京都府総合計画との整合を図りながら、地球環境と調和した持続可能な社会の実現に向けた計画等になるよう議論を進めてまいります。

この白書は、地球温暖化対策やエネルギー政策、循環型社会の形成、生物多様性の保全をはじめとする京都府の環境施策の状況等を紹介しております。多くの皆様に御活用いただき、今一度、環境の大切さについて考え、環境を守り育てる取組を推進していただく際のお役に立てば幸いです。

令和2年1月

京都府知事 西脇隆俊